

東京大学出身の経営トップは数知れない。学歴が問われなくなりつつある今でも、伝統企業、名門企業のトップには東大出身が多い。一方、そうしたエリート人生に興味を示さず、リスクの多い起業家を目指す東大生も少なくない。「二〇三四年には最高の起業家集団を生み出す母体として社会に貢献する」。東大生で組織する学生団体「東大アントレレ会」の目標は大きい。

(青山博美)

二〇〇三年から活動を始め、〇三年十月に学生団体として発足した「東大アントレレ会」。当初から少数精鋭を特徴として、現在も十人程度で活動している。名は「アントレプレナー(起業家)」から取った。

メンバーは、現役の東大生と東大卒の起業家。起業を志す卒業生だけの活動は「未来を担う学生が起業家の勇気と知恵を感じる機会を得る」「新しいビジネスに挑戦する勇気ある人が集い、社会変革の核をつくる」「知恵を共有し、付加価値創造の喜び、楽しさを分かち合っていく」という三つのビジョンが掲げられている。

これを具体化するため、同団体では起業家招いたセミナーや親睦会を年に数回実施している。それにしては、東大を卒業してリスクの大きい起業を志すとは、イメージとのギャップを感じる。しかし、メンバーの考えにもうなかけ部分は多い。「東大だから」と、こういう取り組みに意味があります。私はこれまで、知識や理論のいた机上のものだけでいいのか、と思っていました」とは、同団体の代表を務める井上さやさん

脱エリート、起業家目指す東大集団

久(三)。東大本部システム創成学科の三年生だ。もちろん、これらの活動はホースではない。

これまでは四回実施したセミナーでは、インターネット元会長の柳田篤行氏、マネックス証券の松本大社長CD(最高経営責任者)らが講師。それぞれ約三十人の出席者(ともに起業家に関するディスカッションも行った)。

また、懇親には東京・渋谷をI-T(情報技術)産業の集積地にしたという運動「ピットパレ」構想を起草した西川潔氏(トクベンチャー「ネットエイジ」の創業者)らも参加。生きた情報、苦悩を共有できる環境を提供している。

同団体は、そうした「先輩起業家から学び、志を社会に還元する」という活動指針も掲げている。

企業の実態より迫るための取り組としては、インターネット関連のイベントも用意している。二〇〇三年度には、二回の説明会を行った。

「私が見たいのはインターンが最適だから」と、哲学があるという点もユニークだ。井上さんの説明では「世代の枠を超えた勇気と知恵の循環を生み出し、豊かな社会の実現に貢献する」のが同団体の使命である。折しも、日本経済は長引く不況からなかなか抜け出せないでいる。しかも、日本経済の再生には新しい産業と、それを支える新しい企業の創出が不可欠とされている。

同団体に何度が参加し、学生と懇話したという西川潔氏は、日本経済を活性化するためにはベンチャーエコノミーの活性化が不可欠、と説く。新世代の経営者たち。

ちなみに、同氏は東大出身。国際電信電話(現KDDI)や外資系のコンサルティング会社などを経て起業した。

「大学を卒業したら、勉強のために一度は就職するつもりです。でも最終的には起業したいですね」という井上さん。幸いにして、ベンチャー企業をめぐる社会の見方は大きく変わった。起業家は東大生として欠かせない将来の選択肢になりつつある。

同時に、井上さん自身も一つの願いがある。女性メンバー、起業家を増やしたいということだ。

「私が代表になったことで、そういう効果が出てればいいですね」

世代の枠を超えた勇気と知恵の循環。東大アントレレ会は今、性別の枠を超えた知の循環を進めつつある。

目指すは「最高の起業家集団の創出」。三十年後の二〇三四年が楽しみだ。



今年4月に実施された起業家セミナー。ゲストは松本・マネックス証券社長(東京都文京区の東京大学)。円内は代表の井上さん

30年後、勇気と知恵の循環母体に